

<大会開催報告>

初年次教育学会 第1回大会 開催報告

菊池重雄

玉川大学

2008年11月29日(土)、30日(日)の両日にわたり玉川大学(東京都町田市)において初年次教育学会第1回大会が開催された。初年次教育学会は同年3月に設立されたばかりであるにもかかわらず、近年の初年次教育への関心の高まりもあり、日本全国から大学研究者、職員を中心に予想を大幅に超えた368名が玉川大学のキャンパスに集まった。

1. 山田礼子初年次教育学会長の基調講演

大会総会では開催校あいさつに続き、山田礼子会長による基調講演「日本の初年次教育の展開—その現状と課題—」が行われた。講演のなかで山田会長は、ご自身が1996年ころから研究者、教育者として初年次教育に携わり、その後の10年間で初年次教育が日本の大学に定着したことに感慨を覚えると話された。さらに、2000年までは現在の初年次教育先進大学が個別に初年次教育の研究を進めていたが、2001年以降、先進大学間での対話が始まったと語られ、これまでの日本における初年次教育の歩みについて概観された。

講演ではまた、日本の大学における初年次教育の実施率についての発表があった。山田会長によれば、2001年現在で日本の大学の約80パーセントが初年次教育を導入しているという。調査では、授業として実施している大学が84.3パーセント、授業以外のプログラムとして実施している大学が73.6パーセントに昇る。初年次教育の重要性が叫ばれ出したのが2001年以降のことであり、この急速な導入率の上昇には眼を見張るものがある。山田会長も話されていたが、この導入スピードは初年次教育先進国のアメリカ合衆国やイギリスと比べても驚嘆すべきものである。

2. ワークショップ、研究発表など

初年次教育学会は初年次教育の研究を行うだけでなく、その普及をめざして設立された。80パーセントほどの大学が何らかの形で初年次教育を導入しているとはいえ、手探り状態で初年次教育を展開している大学も少なくない。そこで学会として大会の際にはワークショップを開催し、初年次教育の研究方法や実施方法、さらには具体的な授業の展開方法までもが学べる機会を用意した。別項のワークショップ実施報告を参照いただければ、初年次教育を実施するにあたり現在の日本の大学が何を求めているかがご理解いただけると思う。

個別の研究成果については6会場で36の発表があった。また、討議形式の研究発表として5つのラウンドテーブルを開催し、いずれもたいへん盛況であった。また、学会大会初日の夜に行われた懇親会(会場:小田急ホテル・センチュリー相模大野)には、会員を中心に150名ほどが参加し、遅い時間まで初年次教育について熱心に情報交換をする光景が見られた。

誌面をお借りして今回の初年次教育学会第1回大会の開催にお力を貸して下さった方々にお礼を申し上げる次第である。

(初年次教育学会 第1回大会委員長)